

令和6年度第2回東青地区教科用図書採択協議会議事録

【令和7年度使用中学校用教科用図書】

令和7年度使用中学校用教科用図書16種について、研究調査した結果を報告する。

○国語

2番「東書」について

- ・進度に合わせて活用できるよう、紙面の内容を精選し、多くのデジタルコンテンツで補完している。教材の精選により、紙面が大幅に削減され、軽量化を実現している。

15番「三省堂」について

- ・生活体験を補完できるよう、各学年とも巻末に「読書の広場」「社会生活に生かす」「参考資料」の3部から成る、多くの資料を用意している。全体的に色鮮やかな資料を豊富に採用している。

17番「教出」について

- ・学習の確認ができるよう、各学年とも「学びのチャレンジ」を置き、思考を促している。「学びのチャレンジ」では、グラフや表、ポスターなど、文字以外の情報と、文章を関連づけて考える問題が多数掲載されており、国語科で培った力を活用し、複数の情報の中から目的に合った適切な情報を選択した上で、自分の考えを書いて表現する力の育成が期待できる。
- ・個の学びに活用できるよう、他教科分も併せて「まなびリンク」をデジタル版の資料集として用意している。学習で身に付けた力を広げるための資料が各学年とも掲載されており、生徒の実態に合わせて活用することで、自らの力で学びに向かう態度の育成にもつながる内容となっている。また、当該学年、他学年、書写や社会科など、他教科のデジタルコンテンツにつながるよう整備されており、教科横断的な学びの一助になることが期待できる。
- ・身に付けた力を発揮できるよう、各学年とも「総合」教材を置き、問題解決型学習に取り組ませている。全国学力学習状況調査では、目的に応じて情報を整理し、活用することが課題としてあげられており、実際に「読むこと」のみならず、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習で培った力を活用させる場面を工夫することが求められている。本教科書では、発展的、系統的かつ総合的に、生徒の思考力、判断力、表現力をバランスよく鍛えることができる。

38番「光村」について

- ・読む力を着実に身に付けられるよう、各学年とも20以上の「読むこと」教材を扱っている。1学年は20教材、2学年では21教材、3学年では22教材と、学年が上がるにつれて、教材数及び文章量が増加している。
- ・古典学習に親しめるよう、資料を充実させるとともに古文の美しさを感じられるような特別な太字の楷書体で本文が大きく示されている。折り込みの迫力のある資料が掲載されており、イメージ豊かに親しみを持って古典学習に取り組むことができる。

○書写

2番「東書」について

- ・基礎的・基本的な知識・技能が身に付けられるよう、各学年に書写テストを掲載している。全国学力学習状況調査や高校入試等で出題された問題を参考にして作成されたテスト問題の頁が各学年に配置されている。書いた文字からでは捉えづらい知識面の理解度を測ることにより、書写による学力向上につなげている。

15番「三省堂」について

- ・学び方を身に付けられるよう、各学年に毛筆を学習した後に硬筆を練習する頁を設定している。本教科書では、毛筆の次の時間に、硬筆の学習を意図的に行う配置になっている。毛筆と硬筆を相互に関連させて書く活動を設定することにより、それぞれの特徴を生かした書き方を身に付けることができるように工夫している。

17番「教出」について

- ・これまでの学習を生かして、発展的な学習に取り組めるよう、3学年に選択課題を設定している。新入生に中学校の魅力を紹介する活動、これまでの学校生活で出会った名言を書く活動、お世話になった人への感謝や決意を書いて伝える活動という3つの課題を設定し、選択できるようにしている。文字の伝達性や表現性なども考えながら目的や必要に応じて書く活動を設定している。
- ・学習内容に親しめるよう、行書の筆使いを手の動きと関連付けて記載している。行書の筆使いについて、小学校の学習を生かしながら、手のひらを筆に見立てて、動作化することで、小学校段階の既習を生かし、実感を伴った、行書ならではの筆使いの習得につながるよう工夫している。
- ・学習したことを活用できるよう、各学年に日常生活と関連付けた事例を取り上げている。1学年では、本の帯やポスターなどを書く活動、2学年では、楷書と行書を組み合わせた新聞づくりの活動、3学年では、願書や志望理由書を書く活動を事例として紹介している。書写の学習を通して培った力を日常生活と関連付けて活用することを通して、文字による表現や伝達の効果を実感させることにつなげている。また、同様の事例を多数掲載している。

38番「光村」について

- ・問題解決に円滑に取り組めるよう、楷書と行書の違いや特徴を表す観点を付している。点画の連続や省略、筆順の変化などの観点を「行書スイッチ」と名付け、行書の特徴を具体的に捉えることができるように工夫している。行書を書くための観点を分かりやすく示すことで、楷書から行書への変化の特徴を意識させるようにしている。
- ・学習内容を発展的に活用できるよう、文字と日常生活との関わりについて学ぶコラムを掲載している。例えば、平仮名の「ひ」やカタカナの「ヒ」は、三千年前に、漢字の中で最初に成立した書体である篆書から、隷書をたどって、できた文字であることを示している。多様な文字文化に触れ、そのよさや特徴について理解を深めることができるような特集頁を掲載している。

○社会（地理的分野）

2番「東書」について

- ・地理的な見方・考え方を意識して学習に取り組めるよう、巻頭と章のはじめに「地理を学ぶミカタ」を掲載している。本教科書では、「地理を学ぶ5つのミカタ」や「地理のミカタ」というコーナーを設け、地図や写真資料等、地図の活用に必要な知識や技能に関する演習を交えながら、基礎的・基本的な力が身に付くよう工夫している。
- ・基礎的・基本的な事項を踏まえ、地理的な見方・考え方を活用して深い学びにつなげられるよう、「まとめの活動」に言語活動を設定している。本教科書では、地理的な見方や考え方を活用する場面として、節の終末頁に「まとめの活動」を設けており、単元を通して学んだ基礎的・基本的な内容の確認、探究課題を解決するために知識や事実の整理、言語活動を通じた課題解決という流れで単元の学習を振り返ることができる。
- ・課題意識を高められるよう、章や節のはじめに、学習対象となる地域を大観させる頁を設け、探究課題を設定している。世界や日本の諸地域の学習は、地域の特色を大まかに捉えてから、地域をより理解できるように構成されている。本教科書では、世界や日本の諸地域について学習する、それぞれの節の冒頭を写真資料、解説を中心に構成し、地域を大まかに捉えてから主題や視点を明らかにして探究課題を設定することによって、自分事として課題を捉えやすくし、その地域の理解を深められるようにしている。

17番「教出」について

- ・学習意欲を高められるよう、導入資料でキャラクターを用い、ヒントや考察の視点を示している。複数の資料を比較し、読み取る力を育成できるよう工夫している。本教科書では、生徒や教師のキャラ

クターの吹き出しに、資料を読み取るために必要な情報や視点が示されており、生徒の思考を促し、生徒の興味・関心を高めたり、学習の見通しを持たせたりできるようにしている。

- ・本文に沿って課題を追究できるよう、解説部分や脚注に考え方のポイントを示している。1時間の学習を見通す導入資料が左上に掲載され、学習課題を受けて自分の考えを持ち、本文や解説を手がかりにして理解を深め、1時間の学習のまとめや振り返りができるよう、教科書見開き2頁で1時間の学習の流れを意識し、自ら学べるような構成にしている。

46番「帝国」について

- ・学習内容を理解しやすいよう、コラムや側注の解説に図解や写真が添えられている。学習内容に関する事例や解説を「未来に向けて」のコラムや側注の説明中に写真等を掲載し、わかりやすく学習できるようにしている。

116番「日文」について

- ・学習内容を深められるよう、節の終末にコーナーを設けて議論のテーマを示している。節の終末に議論のテーマを示しており、学習内容を俯瞰し、振り返る場面を通して、知識を再構築し、理解を深められるよう工夫している。

○社会（歴史的分野）

2番「東書」について

- ・表現力を高められるよう、章末に思考ツールなどを用いて、学習を振り返る「まとめの活動」を設けている。学習内容をまとめたり、文章で表現したりする際に必要な思考ツールを掲載しており、学んだ知識を視覚的に整理したり、論理的に思考し、学習内容を再構築して、容易に考察しやすくしたりするよう工夫している。
- ・学習内容を深めたり、自分のペースに合わせて学習したりできるよう、各頁にデジタルコンテンツを使った教材を設けている。教科書のQRコードからデジタルコンテンツへ接続ができるようになっており、動画の視聴やシミュレーションを通して、より具体的に学習内容の理解を深めることができるようにしている。歴史の学習のみならず、国語の「古事記」「万葉集」の古典作品や保健体育の「自然災害による傷病の防止」など他教科の学習内容と関連する項目が取り入れられており、教科をまたいだ知識が身に付くように工夫している。
- ・他者の意見を取り入れ、自分の意見を調整できるよう、章の始めや章末に対話的な活動を促す「みんなでチャレンジ」のコーナーを設けている。大単元の導入と大単元の終末に、資料から読み取れる社会変化の理由などについて、意見交換を行う対話的な活動が多く取り入れられ、自他の意見の相違や自分の意見の調整を図ることができるようにしている。

17番「教出」について

- ・学習する章の時代を大観できるよう、大単元の冒頭に、代表的な歴史資料を見開き2頁で掲載している。例えば、縄文時代の様子と古墳時代の様子を見比べ、史料の示す内容や出土品の違いから時代の変化に注目させており、他の時代と具体的に比べることができるようにしている。
- ・自分の住んでいる地域に興味・関心が持てるよう、身近な地域の歴史を調べる「身近な歴史を調べよう」の頁を設けている。身近な歴史の調べ方について特集頁を設けており、調査の仕方や情報の集め方を解説するなど、多面的・多角的に考察できるよう工夫している。

46番「帝国」について

- ・興味・関心を持って学習に取り組めるよう、大単元の冒頭に、各時代の生活の様子をイラストで表現した「タイムトラベル」のコーナーを設けている。見開き2頁の大きさで各時代の生活の様子が分かるイラストを掲載しており、これから学ぶ時代への興味・関心を高めるとともに、発問が付されており、資料から前の時代と比較し、変わったところやなぜそのように変化したのか読み取る力なども身に付けられるよう構成している。

81番「山川」について

- ・学習内容を深められるよう、単元の終末に「ステップアップ」を掲載している。歴史的分野の学習内容を深めるためには、時代の転換の様子を捉えたり、時代の特色を理解したり、振り返ったりするこ

とが重要であり、1時間ごとに歴史的事象を整理する方法を示している。

116番「日文」について

- ・深い学びにつながるよう、大単元を貫く「問い」、大単元末で「まとめと振り返り」ができるよう工夫している。課題を自分事として捉えられるようにしており、大単元の始めに問いを立て、単元の問い、そして、大単元末でまとめと振り返りを行い、年表や地図を活用しながら、深い学びになるよう構成している。

225番「自由社」について

- ・学習したことをさらに深めるよう、適所に人物や時代を掘り下げる「もっと知りたいコラム」の頁を設定している。様々な視点から考察できる文書資料を準備し、時代背景や地域性などと関連付けて課題を追求し、内容を深く理解できるよう工夫している。

227番「育鵬社」について

- ・伝統や文化を理解できるよう、巻頭に日本の美を感じたり、大切さを学んだりすることができる特設頁を配置している。学習した時代の文化の特色を考えて捉えることができるよう、仏像や彫刻、絵画などの代表的な事例を取扱い、日本の美として、その時代の文化の特色や当時の人々の考えを捉えることができるよう工夫している。

229番「学び舎」について

- ・見本本がない範囲で研究調査している。

236番「令書」について

- ・日本の歴史を深く理解できるよう、適所に国の成り立ちや天皇の歴史に関連する記述を多く掲載している。神話・伝承などを通して当時の人々の信仰やものの見方に気付くよう、適所に古事記、日本書記などの神話や天皇の系統図を示し、日本の歴史を深く理解できるよう構成している。

○社会（公民的分野）

2番「東書」について

- ・自らの考えを整理したり、表現したりできるよう、章末に多様な思考ツールが活用できるようにしている。章末に多様な思考ツールを使って、理由を考えたり、考えを整理したり、発表し合ったりする活動を行う頁が設けられており、自分の考えを論理的に表現し、判断できるよう工夫している。
- ・学習内容の理解を高められるよう、動画や映像などのデジタルコンテンツを設けている。教科書のQRコードからデジタルコンテンツへアクセスできる数が多い。本教科書のデジタルコンテンツは、思考ツールやワークシートだけでなく、導入で活用できるクリップ画像や教科書の内容の理解を助ける映像も盛り込まれており、自分のペースで復習することができるよう工夫している。
- ・学習内容を深められるよう、適所にシミュレーションできる「なるほどスキルアップ!」「やってみよう!スキルアップ」を設けている。例えば、小選挙区制や比例代表制などの選挙制度、円高・円安の影響等について、シミュレーション活動を通して、社会の仕組みを具体的に学び、実感を持って理解できるよう工夫している。

17番「教出」について

- ・多角的・多面的な見方が身に付くよう、頭注に学習内容に関連した社会事象を掲載したコラム「公民の窓」を掲載している。社会の生きる人々や社会事象の様々な出来事を取り上げ、多角的・多面的な見方ができるよう工夫している。
- ・公民的な見方・考え方ができるよう、章の導入に現代社会の「見方・考え方」を配置している。現代社会の見方・考え方をを使って、課題を解決できるよう、章の導入に対立と合意、効率と公正など章全体で活用する見方・考え方を配置し、活用できるよう工夫している。

46番「帝国」について

- ・学習したことをさらに深められるよう、適所に今日的課題について考える「アクティブ公民」のコー

ナーを掲載している。地方自治の学習後に内容を深め、多面的・多角的に考察できるよう、自分のまちの課題を解決する政策方針や予算案を考え、発表する場が設けられており、今日的な課題を自分事として捉え、考察できるよう工夫している。

116番「日文」について

- ・見通しを持って学習に取り組めるよう、単元の冒頭に学習課題を提示し、話合いや議論など多様な表現活動を設けている。言葉だけではイメージしにくい難しい社会事象や単元全体の見通しを持てるよう、社会事象を漫画で紹介したり、疑問を持たせるためにキャラクターの会話を示したりするなど、問いを作り、課題解決を行うための多様な活動を準備している。

225番「自由社」について

- ・学習したことを深められるよう、他分野に関連する資料を掲載した「もっと知りたい」の頁を設けている。例えば、「選挙制度と政治参加」において、日本だけでなく、イギリスやフランス、アメリカの選挙制度を紹介するなど、グローバルな視点で考察し、理解できるよう工夫している。

227番「育鵬社」について

- ・社会に参画する態度が身に付くよう、巻末にレポートでまとめる単元を設けている。持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に、今日的な課題を解決できるよう設定しており、終末にレポートにまとめるなど工夫している。

○地図

2番「東書」について

- ・防災・安全への意識が高められるよう、ハザードマップの見方や防災施設の機能について学習する「自然災害」の頁を設けている。防災教育の一環として、災害に適切に対応する能力を身に付けるためには、地震や津波、集中豪雨による洪水などの自然災害や、防災への取組の理解が大切であり、本地図では日本の自然災害・防災について取り上げ、災害の種類やハザードマップの見方、防災施設の例を学習することができる。

46番「帝国」について

- ・地理的な見方・考え方を活用できるよう、随所に「地図で発見」のコーナーを設け、主題図を読み取る視点を詳しく掲載している。本地図では、「地図で発見」のコーナーを随所に配置して地図の特徴を読み取る際のポイントを示しており、地理的な見方・考え方を意識しながら、順を追って資料の特徴を読み取ることができる。
- ・身近な地域に興味・関心を持てるよう、青森ねぶた祭や岩木山山麓の果樹栽培等、本県をはじめ、東北地方に関する資料を見開きで掲載している。本地図では、東北地方の学習において、見開き2頁の中に本県に関する農業や特産物などの多様な資料を掲載しているほか、りんご栽培や冷害等、自然環境とのかかわりから多面的・多角的に考察できる資料を掲載しており、生徒は興味・関心を持ちながら、本県を含む東北地方6県の結びつきと合わせて学習することができる。

○数学

2番「東書」について

- ・思考力、判断力、表現力を高められるよう、章末の「活用の問題」に、知識・技能を活用して説明する問題を多く扱っている。日常生活において、数学の知識・技能を活用して解決する問題を掲載している。身に付けた知識・技能を活用する場面を多く設けており、思考力、判断力、表現力を伸ばすことが期待できる。

- ・ 数学的な見方・考え方を身に付けられるよう、本文にキャラクターの台詞を示し、深い学びの実現に向け、学びのつながりを自覚させる工夫をしている。例えば3学年「2次方程式」で、キャラクターの台詞で既習事項を想起させ、解決の見通しを持たせるためのヒントを示している。また、問題解決をして学習を終えるのではなく、発展的に考察できるよう、学びをつなぐ工夫をしている。
- ・ 主体的に学習に取り組めるよう、随所に学習場面やねらいに応じたQRコンテンツを設け、個別最適な学びの実現に向けた工夫をしている。問の類題がランダムに表示される「フラッシュカード」や、証明の筋道や根拠となる性質を考えながら証明を組み立てることができる「証明メーカー」は、学習の理解を確かなものにするとともに、理解を深めるための有効なコンテンツになっている。

4番「大日本」について

- ・ 数学が実社会に生かされていることを知ることができるよう、巻末に「MATHFUL」のコーナーを設けている。身の回りにある数学の事柄に気付かせる質問や読み物資料を掲載している。日常生活や社会生活との関わりを知り、学んだことのよさを実感させることで、学習意欲につながられるよう工夫している。

11番「学図」について

- ・ 学習内容に興味・関心を持てるよう、各節の始めに、身近な題材を取り上げ、疑問を引き出す工夫をしている。1学年「比例と反比例」の章では、プールに水を入れる場面、3学年「相似な図形」の章では、タブレットで写真の大きさを変える場面を設けている。身近な題材を扱うことで、生徒から疑問を引き出し、各節の学習への興味・関心を高める工夫をするなど、生活に果たす数学の役割に気付くことができるようにしている。

17番「教出」について

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう、随所に「例」の内容を確認するための「たしかめ」を設けている。「たしかめ」の問題で「例」の問題の理解度を確認でき、生徒のつまずきに早期に対応できるようにしている。生徒が自信をつけられるよう、「例」、「たしかめ」、「問」の流れで練習問題を構成し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう工夫している。

61番「啓林館」について

- ・ 学習したことを深められるよう、章末に振り返りの場面として「○章のあしあと」のコーナーを設定している。章の学習全体を振り返って、わかったこと、できるようになったこと、さらに学んでみたいことなどをまとめる活動を設定している。生徒が目的意識をもって学習を進め、その学習過程や結果を振り返って、評価・改善することができるように配慮している。
- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図れるよう、随所に「例」、「例題」を示し、学習した内容を確認できる「問」の問題を設定している。基礎・基本に相当する内容について、考え方を示しながら丁寧に取り上げ、生徒が自ら取り組むときの参考にできるようにしている。「例」、「例題」の直後には、それにならって解くことのできる「問」を設け、確かな知識・技能が身に付くよう工夫している。

104番「数研」について

- ・ 学びの発展の機会を持てるよう、単元末に高等学校の学習につながる内容を取り上げている。3学年「円」の単元末に、高等学校で学ぶ「円に関するいろいろな性質」を掲載している。高等学校で扱う発展的な内容を取り上げ、中学校の学習内容と関連付けながら学習を進められるよう工夫している。

116番「日文」について

- ・ 学習内容を正確に把握できるよう、小節の始めに「めあて」を明確に示している。生徒が問題場면을正確に把握できるよう、図を活用しながら示し、授業の「めあて」を明記している。このことにより、授業で解決すべきことが明確になるとともに、教師の授業づくりにも役立てられるよう配慮している。

○理科

2番「東書」について

- ・学習内容を理解する支援となるよう、つまずきやすい箇所にデジタルコンテンツ「シミュレーション」を設定している。生徒の理解を支援するために、教科書で例示された図をデジタルコンテンツ「シミュレーション」上でも表示できるようにしている。条件を変えることによって、結果が変わることを視覚的に捉えられるよう工夫している。

4番「大日本」について

- ・身に付けた知識を実感できるよう、「やってみよう」のコーナーに目や火山の模型づくり等、ものづくりに関するコラムを多く掲載している。理科では、知識・技能をただ学ぶだけではなく、つくりや仕組みがどのようになっているかを肌で感じ取って理解を深めることが重要である。身の回りにあるものを使ったものづくりを紹介するコラムを多く掲載しており、目の模型や火山の模型等、ものづくりを通して実感を伴う理解につなげられるようにしている。

11番「学図」について

- ・科学的に考え探究する力を身に付けられるよう、随所にコラム「理路整然」を掲載している。各学年のテーマを設けたコラムを随所に掲載し、思考・判断・表現する際の手立てとしている。また、このコラムは本文に直結する内容に特化されており、関連する読み物資料や特集を全て巻末に「補充資料」としてまとめて掲載している。
- ・学習意欲を高められるよう、青森市のねぶた祭や浅虫水族館など青森県に関連のある写真を多く掲載している。青森市の「ねぶた祭」で大型ねぶたとその曳き手を見開きで2頁にわたって大きく取り上げており、力の性質についてイメージを膨らませるための資料として紹介している。また、動物園や水族館を実際に訪問して動物を分類できる施設の例として「浅虫水族館」を取り上げている。この他、りんごの花を人工受粉する様子や、下北半島の火山灰からできた地層の写真、おいらせ町の露頭の様子を表した写真なども掲載しており、郷土青森県の学習教材を1学年から3学年までで、計10例取り上げている。
- ・デジタル教科書と同様に紙面を端末で活用できるよう、頁上隅にQRコードを付し、ウェブページに接続できるようにしている。各頁上隅のQRコードから無償のウェブページ「ミライ教科書」に接続することができ、紙面と同じ内容を全ての頁について使用できる。デジタルの紙面では、気になる部分をさらに拡大して確認したり、関連資料や操作手順動画を視聴したりするなどの使い方が可能であり、アナログの紙面と併せて、生徒が2冊の教科書を活用して学習できる。

17番「教出」について

- ・習得した知識を活用して考え結論を導き出せるよう、体内にある器官の模式図を大きく掲載し、直接書き込めるように工夫している。1頁全体を使って体内にある様々な器官の模式図を大きく掲載している。消化や呼吸、血液循環等、からだのつくりとはたらきの学習で習得した知識を活用し、関連する物質の移動経路について思考を整理しながら直接書き込んで自分の力でまとめることができるよう工夫している。

61番「啓林館」について

- ・習得した知識を活用して自分の思考を表現できるよう、関連箇所近くに「Action活用してみよう」を掲載している。例えば、酸素の性質を学習した後に「酸素が存在しないことを確かめる方法」について考える場面、また、消化の学習をした後に「それぞれの栄養の消化がどこで行われているのか」を考える場面を設定し、身近な現象に適応させることができるよう工夫している。
- ・様々な視点から課題解決ができるよう、1つの課題に対して複数の検証方法を提示している。課題解決の方法を3つ紹介しており、どの方法を選択して検証を行ったとしても同じ結果や考察、まとめができ、様々な視点から課題解決ができるよう工夫している。

○音楽（一般）

17番「教出」について

- ・学習の見通しを持てるよう、教科書冒頭に教材と学習の進め方を示した「学びMAP」を掲載している。本教科書に掲載している各教材で育成を目指す資質・能力や、歌唱、創作、鑑賞における学習の進め方が一目でわかるよう工夫している。

27番「教芸」について

- ・音楽の学習を通して社会とのつながりについて視野を広げて考えられるよう、各学年に「生活や社会の中の音や音楽」のコーナーを設けている。各学年の「生活や社会の中の音や音楽」のコーナーにおいて、1年の教科書では「音や音楽の果たす役割」、2・3年上の教科書では「人と人をつなぐ音楽」2・3年下の教科書では「仕事と音楽」と、発達の段階に応じて、音や音楽、生活や社会、文化との関りについて段階的に広い視野で考えることができるように工夫しており、全学年にテーマを設けて掲載している。
- ・無理なく学習できるよう、各領域、分野をバランスよく配分し、創作の学習では作った音楽を再生できるデジタルコンテンツを設定している。既習の教材曲を用いて旋律の音のつながり方を確認し、また、リズムづくりの授業で自分が創作したリズムを活用して旋律づくりを行うなどの手順を分かりやすく示している。また、二次元コードから、創作ツールを活用して、自分で作った音楽を再生することができる。学んだことを生かしながら、自分の思いが表現されているかを音を聴きながら創作できるよう工夫している。

○音楽（器楽合奏）

17番「教出」について

- ・我が国の郷土の音楽に興味・関心を持てるよう、和楽器の唱歌を唱える活動を掲載している。箏や太鼓、三味線、尺八などの学習において、唱歌を唱える活動を取り入れている。唱歌を唱える活動を取り入れることで、楽器の音色の特徴を感じ取りながら旋律や奏法を覚えることができるよう工夫している。

27番「教芸」について

- ・我が国の郷土の音楽に興味・関心を持てるよう、津軽じょんから節やお山参詣登山囃子を紹介している。青森県の民謡や郷土芸能である、津軽じょんから節や、お山参詣登山囃子などを三味線や篠笛を学習する頁に写真で紹介されており、青森県の音楽を通して、我が国の郷土の音楽に興味・関心を持つことができるよう工夫している。
- ・学んだことを生かして学習を深められるよう、器楽分野と創作分野の関連を図ったデジタルコンテンツを設定している。実際に箏を演奏する学習活動のほかに、箏の音階や音色を生かした創作の頁を設けている。二次元コードから創作ツールを活用して、創作した旋律を箏の音色で確認することができる。器楽分野と創作分野の関連を図りながら学習を深められるよう工夫している。

○美術

9番「開隆堂」について

- ・学習意欲や興味・関心を高められるよう、本県出身作家の作品や地域の題材を取り上げている。青森ねぶたの紹介や、青森県立美術館のサイン、本県出身の奈良美智の作品など、生徒にとって身近で親しみやすい資料を取り上げ、より関心をもって学習に取り組めるようにしている。
- ・鑑賞の学習が深まるよう、実際の作品を実感できる原寸大や部分拡大、凹凸のある表紙で工夫して掲載している。作品の一部を実際の大きさと掲載しており、小さい図版では気付かないような細かい表現まで見て取ることができる。また、教科書の表紙は凹凸のある印刷を施し、作品の質感を想

像できるよう工夫している。作品の見方や感じ方を広げ、実感を伴って理解することができるようにしている。

38番「光村」について

- ・基礎的・基本的な知識・技能が習得できるよう、別冊資料に多くの資料を掲載し、関連頁を示している。別冊資料として、材料・用具・技法などの基礎的・基本的な内容を、1冊の資料としてまとめている。生徒は複数の技法や資料を参考にしながらアイデアを広げるとともに、思考を深め、意欲的に活動できるようにしている。

116番「日文」について

- ・学習を通して夢や志を育めるよう、多方面で活躍する著名人のメッセージを掲載している。美術に関わりながら社会で活躍する著名人からの、美術を通して社会で生きる視点についてのメッセージを掲載している。美術科で学んだことが、実社会で活かされていることを実感するとともに、夢や志をもち、挑戦する生徒を育成する題材の展開が可能である。
- ・造形的な見方・考え方を働かせて学習できるように、目標や内容を色やマークで簡明に示している。美術の授業で身に付けたい力や学習のねらいを明確にするために、各題材の「目標」を色分けされたマークで示すとともに、「造形的な視点」を生徒にわかりやすい言葉で示している。授業のねらいがわかりやすく示され、生徒が目的意識を持って、自分が表現したいものに向かって学習を進めることができるようにしている。
- ・体験的に学ぶことができるよう、折り曲げて屏風として鑑賞できる見開きの頁を設定している。鑑賞の学習内容を深めるための資料として、教科書を実際に折って鑑賞することで見え方が変わる屏風や、巧みな彫りや摺りが味わえる高精細な浮世絵を原寸大で掲載し、体験的に学べるよう工夫している。

○保健体育

2番「東書」について

- ・思考力・判断力・表現力を高められるよう、日常生活と関連した資料を基に、考えたり話し合ったりするための発問を設定している。身近な生活と関連させ、課題意識が高まるような発問が記載され、資料を参考にしながら、健康に関する考えを伝え合ったり、話し合ったりできるよう構成している。様々な健康課題がある現代社会において、このような思考力・判断力・表現力を高められる授業の流れは、健康に関する課題に対して、科学的な思考と適切な意思決定や行動を選択していくことにつながる。
- ・進んで問題解決に取り組めるよう、現代的な諸課題や健康との関わりについての資料やグラフを掲載している。調和のとれた生活に関する資料「消費エネルギー」「運動習慣と睡眠の関係」「朝食の習慣と睡眠の関係」等を掲載するなど、資料を基にしながら運動習慣、食生活等を見直すきっかけとなり、実際に行動計画を立て、調和のとれた生活を実践していこうとする意欲を高めることにつながる。
- ・身に付けた知識を活用できるように、関連した内容を閲覧したり、疑似体験したりできるQRコードを豊富に掲載している。画面を動かしながら周囲の状況を確認し、資料だけでは読み取ることができない様々な情報を収集することができ、危険回避について切実性を持ちながら考えることができる。多くのデジタルコンテンツを用意しており、各章の学習内容の理解を深め、身に付けた知識を日常生活に活かすことができる工夫をしている。

4番「大日本」について

- ・身に付けた知識を活用できるように、章末資料から記述によって、学習内容を振り返ったり、考えを深めたりする欄を設けている。学習した内容を振り返り、さらに深め、実生活に活かしていけるよう、章末に自分の考えを記入する欄を設けている。例えば、1学年の体育理論「運動やスポーツの多様性」について学んだことに触れながら、運動やスポーツの移り変わりや発祥地の特性によるスポーツの違い、運動技術の発達について調べる項目があり、それらを踏まえて、オリンピック・パラリンピックへの関わり方や、その他の運動やスポーツに、今後どのように関わっていきたいのか考えられるようにしている。

50番「大修館」について

- ・学んだことを広げられるよう、口絵や特集資料等で様々なスポーツの関わり方、共生社会、ストレスについて紹介している。例えば、成長に伴うライフステージにおけるスポーツへの関わり方や、全ての人が互いを大切に、支え合い、生き生きとした人生を送ることができる共生社会について紹介している。特集資料では、ストレスの様々な原因、心や体に現れるストレスのサイン、心の病気の例を示しており、それらのストレスを解消するために、日常でも行えるリラクゼーションの実践例が数種類示されているなど、心身への関わりがあることを深く理解できるようにしている。
- ・各章の初めに単元での学習内容や小学校、高等学校での学習内容について掲載している。全ての章とびらに、「小学校で学習したこと」「この章で学習すること」「高校で学習すること」を示しており、学習に対する見通しを持たせることや、既習事項の振り返り、発展的な内容への取組など、系統性のある学習ができるようにしている。

224番「学研」について

- ・学んだことを広げられるよう、「探究しようよ！」に、各項の内容に関わる「探究」を掲載している。各章の最後に探究に特化した頁を設けている。各章での学習を受け、探究する内容を生徒たちが協働的に調べられるよう、項目を複数示している。また、様々な事例を基に自分の考えを深める場面や、考えた内容を仲間と表現し合う場面を設けるなど、実生活において活用することができる知識や技能を習得できるよう工夫している。

○技術・家庭（技術分野）

2番「東書」について

- ・基礎的・基本的な知識や技能を身につけられるよう、各題材に関連する基礎技能、科学的な原理・法則をまとめて掲載している。本教科書では、基礎的な技能については、「TECK Lab」として、技術の科学的理解につながる基礎的な学習内容を「技術のとびら」として指導内容毎にまとめて記載し、生徒が学習の場面で参考にしやすいように工夫している。
- ・情報を適切に活用できるよう、情報モラルの内容では、身近なトラブルの例を仕組みと共に多数、掲載している。情報モラルについては、情報通信ネットワーク仕組みと共に便利な面と注意すべき点を1頁で掲載している。情報の特性を理解した上で、どのような危険性があるのか、どのようにすると有効に利用できるのかをイラストと共に分かりやすく掲載しており、情報モラルの醸成が図られるよう工夫している。

6番「教図」について

- ・主体的に作業に取り組めるよう、作業手順について、作業工程毎に写真を多く掲載している。必要となる基礎的な技能の解説を工程毎に写真を掲載し、ポイントも共に示すことで、生徒自身の技能や学習の状況に応じて、必要な場面で教科書を参考にしながら作業できるよう工夫している。

9番「開隆堂」について

- ・技術の見方・考え方を働かせて学習に取り組めるよう、ガイダンスや各題材では、現在活用されている技術や学習成果を評価する活動を意図的に取り上げている。現在活用されている製品や生徒自身が行った、技術を活用したものづくりの学習成果を社会からの要求や環境性などの視点から考えまとめることができるよう、ワークシートを掲載し意図的に取り上げている。ものづくりの学習過程の場面で、よりよいものを製作しようとする意識につながり、改善点や修正方法などを意識し、技術の見方・考え方を働かせながら、問題解決的に学ぶことができる。
- ・学習を通して夢や志が育まれるよう、各題材の終末に技術者のインタビューを掲載している。現在の職業を選んだ理由や開発のきっかけに加えて、中学生に向けて、学校での学びや生活での経験の蓄積が夢や志を持つことへつながることや、何事にも積極的に挑戦することで可能性が広がることなどを掲載している。
- ・プログラミングの学習に意欲的に取り組めるよう、多様な双方向性のプログラミングコンテンツの実習例を掲載している。「メッセージアプリ」の製作では、メッセージの交換機能だけではなく、パスワードの設定や安心なアプリにするためには、どのような工夫ができるかなど、改善を促すよ

うな問いや、参考となるプログラム例、完成時の動作画面を示している。生活を豊かにするために、学習で身に付けた情報活用の知識や技能を生かすことができ、意欲的にプログラミングの学習に取り組むことができる。

○技術・家庭（家庭分野）

2番「東書」について

- ・基礎的・基本的な技能が身に付けられるよう、実習の単元の後に、学習の振り返りができる「いつも確かめよう」の頁を設けている。実習や生活での実践に必要な技能の定着を図るために、一連の流れを写真やイラストのみならず、動画でも示し、生徒が必要な時に何度でも確認できるようにしている。また、実際に起こりそうな失敗例を、登場する生徒の疑問点という形で掲載することで、正しい方法を再確認して学ぶことができるようにしている。
- ・課題意識を高められるよう、折り込み頁等に、実物大の食品等の写真を掲載している。自分の食事を振り返り、必要な栄養素をバランスよく摂取するためには、一日どれくらい食べればいいのかという学習課題を捉えさせた後、一日に必要な食品のおおよその量を「手ばかり」「目ばかり」の手法で確認できることを紹介している。各食品の目安量を実物大の写真とともに、6つの食品群に分けて1日に必要とされる量を数字で明記し、実感できるようにしている。

6番「教図」について

- ・身近なことから生活を振り返られるよう、学習タイトルの横に、イラストや写真を用いた「見つめる」のコーナーを設けている。学習の導入で、教科書の学習タイトルの横に、中学生の生活のある1コマを取り上げ、生徒が自分の生活をみつめるきっかけ作りをしている。同年代のキャラクターの目線で捉えた疑問を、漫画や写真で示していることで、自分の生活に置き換えて学習をスタートさせていく構成にしている。

9番「開隆堂」について

- ・生活の中で考え、実践できるよう、随所に、「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」のコーナーを設けている。基本的な内容の理解をさらに深めたり応用したりするため、具体的な活動例を豊富に示すことで、自分の生活に視点を引き寄せて、生活に生かすことができるよう工夫している。
- ・理論的によりよい調理方法を考えられるよう、調理実習例の下部に、「調理方法Q&A」コーナーを設けている。「調理方法Q&A」コーナーは、調理の一つ一つの工程には意味があり、見た目や味だけでなく、栄養面や健康面などにも配慮しながら調理を行っているということを、根拠とともに深く理解することができるようにしている。食に関する知識を習得し、健全な食生活の実践をめざす「食育」にもつながっている。
- ・学んだことを深められるよう、体験学習の頁に科学的な根拠を示したイラストを掲載している。衣食住の生活における事象を論理的に考えることができるように、生活の中では形として見えないものをイラスト等で視覚的に示すことで学びを発展させ、思考力、判断力の育成につながるよう工夫している。理科や体育などの他教科とも関連させて学ぶことができる具体的な事例を掲載している。

○英語

2番「東書」について

- ・意欲的に問題を解決できるよう、単元を貫く問いを冒頭に設定している。題材名を疑問文にし、単元を貫く問いにすることで、生徒たちがこれから学ぶことがどのような目的や場面、状況なのかを想像して学習へ取り組み、その疑問文に答えることを単元の目標として学習を進めることができる。

9番「開隆堂」について

- ・学習内容に親しめるよう、新出表現の導入を2コマのマンガ形式で示す場面を設定している。導入の場面で2コマ漫画を用いて、吹き出しの言葉を予想させたり、内容について深く考えたりするなど、

生徒の興味・関心を高め、言語の使用場面や働きを理解できるよう工夫している。

15番「三省堂」について

- ・学習の見通しを持てるよう、単元の目標を目次と単元の初めの頁に掲載し、単元末に自己評価をする段階的に学ぶ構成にしている。目次と各単元の初めの頁に単元の目標を記載することで、生徒が各単元でできるようになることを理解し、見通しをもって学習に取り組むことができる。また、単元末には自己評価ができるコーナーを設け目標に対する自己の振り返りができるようにしている。
- ・興味・関心をもって長文読解ができるよう、大単元末に説明文・物語文をバランスよく配置している。読み物教材の題材を物語、人物についての説明文、意見文などを3年間を通して配置し、生徒が様々な分野についての英文に触れることができるようにしている。

17番「教出」について

- ・基礎的・基本的な事項を身に付けられるよう、学んだ言語材料を単元末にまとめて掲載している。各単元で学んだ文法事項を単元末にまとめて分かりやすく掲載している。英語の語順の基本となる主語と動詞には共通した色分けをするなどの工夫をしている。最後には確認ができるよう、練習問題を掲載している。

38番「光村」について

- ・進んで問題解決に取り組めるよう、巻末に「英語の学び方ガイド」や思考ツールを掲載している。巻末に英語の学び方ガイドを掲載し、「書くこと」「話すこと」「聞くこと」「読むこと」の4つの技能の学び方を掲載し、生徒が自主的に学ぶ時のポイントを示している。また、思考ツールも掲載しており、生徒が自己の思考を深める際に活用できる方法を学年に応じて掲載している。スライドでは2つの意見の共通点と相違点を整理する方法を示している。

61番「啓林館」について

- ・即興的にやり取りできる力を身に付けられるよう、小単元ごとに「Enjoy Chatting」を設定している。Enjoy Chattingは本文のテーマに関係する話題を提示し、ペアでの英会話を即興的に行い、スムーズな本文への導入をすることができる。
- ・夢や志を英語で語るができるよう、各学年に将来のことを考える活動を設けている。生徒が将来の生き方を考えるための教材を豊富に掲載している。自分の夢について発表する単元、夢をかなえるための努力、世界で活躍する人の紹介文、自分の尊敬する人についての発表といった将来にかかわることを学び、3学年最後には学んできたことを生かし、過去の自分から将来の自分を描く、This is all about me. と題して、自分についてのリーフレットを作るまとめ活動を設定している。中学校の外国語学習を通じて自己を見つめ、自己実現につながる教材を掲載している。
- ・思考力、判断力、表現力を育むよう、単元の終わりに領域を統合した自己表現活動を設けている。各単元の最後にListen & Think, Read & Think, Think & Speak, Think & Writeのいずれかが設定され、英文を聞いたり、読んだりしたことに対して自分の考えを表現する頁を設定している。生徒たちは、各単元に設定された言語活動に取り組むことで、思考力・判断力・表現力を身に付けることができる。

○道徳

2番「東書」について

- ・心情の変化を視覚的に捉えながら考え、議論できるよう、巻末に「心情円」を付している。登場人物や生徒自身の心情の変容を視覚的に捉えながら深く考え、仲間と議論できるように工夫している。心情円のマークがついた教材は葛藤場面があることを示しており、考え、議論する手段として心情円を活用することができる。

17番「教出」について

- ・道徳的価値に段階的に迫ることができるよう、教材末に3つの発問「学びのみちしるべ」を設定している。例えば、シンプルな文章とイラストで構成された1年生の教科書に掲載されている谷川俊

太郎作の「ともだち」という教材では、3つの発問が「自分自身に関すること」、「人との関りに関すること」、「集団や社会との関りに関すること」で視野を広げ考えを深めることができるように設定している。各教材に対して3つの発問を設定し、見方・考え方を変えながら深く考えさせるよう工夫している。

38番「光村」について

- ・地域の文化や人材に興味をもつことができるよう、地域的话题を題材として取り上げている。1年生の教科書に掲載されている教材では、ねぶた師という夢を見つけ、夢を叶えるまでの物語を、迫力のあるねぶた祭と真剣な表情の北村さんの写真とともに紹介している。教材の最後には、2頁にわたって北村さんが制作したねぶたの写真に掲載している。

116番「日文」について

- ・自分の考えや議論した結果を記録し、変容を確認したり振り返りをしたりできるように、別冊で道徳ノートを準備している。上段の発問欄が空欄になっているので、授業者は生徒の実態に応じて発問をアレンジすることができる。また、一番下にある自由欄は、授業者からのコメント欄としてだけでなく、家庭からのコメント欄として活用することもできる。
- ・3年間を通して道徳的実践力を身に付けられるよう、生徒の発達段階に応じて、ボランティアに関する教材を段階的に多く設定している。よりよい人間関係の形成や協力、勤労、社会奉仕などの道徳性を養うことができるよう、本教科書では、ボランティアに関連する教材が、生徒の発達段階に応じて設定されている。また、生徒の発達段階に応じて掲載数を増やす工夫もしている。
- ・夢をもって中学校生活をスタートできるように、1年生の最初に夢の実現を応援する教材を配置している。本教科書では、中学校生活を、夢や志をもってスタートできるように、1年生の最初に「夢」に関する教材を取りあげている。夢を叶えた筆者から生徒に向けたメッセージを掲載している。

224番「学研」について

- ・授業を通して考えを深められるよう、巻頭で「考えを深めるための4つのステップ」を紹介している。考え、議論する道徳授業を通してよりよい自分の生き方につながるステップが、分かりやすく紹介されている。教材末には、4つのステップに沿った発問が掲載されたワークシートが設定されている。

232番「あか図」について

- ・家庭で話題にし、家族との対話を深められるよう、一般書籍や新聞記事の実話やエッセイを教材として取り上げている。命の重みについて、授業を超えて家庭で話題にできる教材が取り上げられている。
- ・役割演技で多面的・多角的に価値項目について考えられるよう、各学年に「マイ・プラス」を設定している。例えば、登場人物それぞれになったつもりで考えたり、役割演技をしたりすることで、道徳的価値について多面的・多角的に考えることができる。

233番「日科」について

- ・各教材で自分の思いを仲間と語り合えるよう、巻末にウェルビーイングカードを付している。26枚のカードからなり、それぞれのカードには「希望」「感謝」「多様性」といった、ウェルビーイングのために大事なことが書かれている。教材について考えるときに、自分が生き生きと過ごすために何が大事なのか、26枚のカードから選んで、その理由もあわせて仲間と共有する。白紙のカードが1枚準備されており、自分で考えたキーワードを書き込めるよう工夫している。

【主な協議内容・意見】

- 子どもたちが学びやすく、先生方の負担軽減にもつながる教科書がよい。
- 青森県に関する内容や写真が多く使われていることが分かった。
- デジタルコンテンツが充実していることが分かった。
- デジタルコンテンツの数だけではなく、内容が学びにつながるものがよい。